

日本新名所・デンタルビル

モンテスキューが「エッセー」を書いてからすでに歳年月が過ぎ、その間に西欧では「エッセイスト」という作家とは別種族の文筆家が誕生し、日本に入ってきてエッセイは「随筆」、エッセイストは「随筆家」と訳されている。随筆とは「見聞、感想などを筆にまかせて書いたもの」と国語事典には記されている。「筆にまかせて」と、これがクセモノである。熟慮して、思想を理論的に配列しあるいは物語として計算して書かれたものが「文学」であるとするならば、計算しないで思いつくままにつらつらと書いたものが「随筆」という分野に入るのであるか。確かに文学に物語はあっても、随筆にストーリーはないのかも知れない。

随筆は、ちょっとした物事の経緯を書き、それについてのコメントを述べる。何か、蘊蓄がてら閃きのようなちょっと心に残る瞬間的な感動・感想を記す。長大な文学の1/10のミニチュア版、時によって1/5の「なるほど」を与えてくれる、でも所詮は短い、とても短い極小文学様な書き物なのであるか。日本に於いてエッセイとは雑文にちょっと何かが生えたもの、と解釈するのが一般的なのではないかと私的には思考する。

「何か」とは大地に生えて成長する緑豊かな木を考えれば良い。杉の木もあれば、桜の木もあり、今まさに生えようとする幼木もある。ある木は成木し、更に伸びノーベル賞をとるかも知れない。幼木の発展は全て作者にかかっている。鎌倉時代の作品



に吉田兼好の「徒然草」があるが、エッセイとはそんな感じなのであろうか。つれづれなるままに……というイントロは正しくエッセイとは何かという問いに答えているように思われる。

さて、……つれづれなるままに……昨今、東京には六本木ヒルズや新丸ビル等々新しいビルがどんどんできてきている。新宿にも超高層ビル建設の話がある。手前にある小さいビルが、左からセンチュリー、住友ビル、都庁の第一庁舎と第二庁舎で、右端がパークハイアットホテルである。奥の巨大な、二本柱の都庁（高さ244m）の3

倍程の高さの、何か、歯科医にはお馴染みの何かに似た形態の、三本足の斬新な近未来的な建物が最近の日本新名所といわれる、通称「デンタルビル」である。

東京と神奈川と千葉の8つの歯科大学と歯学部と厚生労働省が入る予定ともいう。学生寮もあるらしい。屋上（咬合面）にはスーパーデンティストパークという、ディズニーランド以上のテーマパークもあるという。天気の良い日には蜃気楼のように遠くから見える。複雑な迷路のような道のためなかなか辿り着けない。

でも一度は行ってみたい、歯科医の心の中にいつもある、夢のビルディングなのである。

さあ、皆さん！ あなたの中に眠っている「夢の鍵」を取り出しましょう。

そして、「心の扉」を開けるのです！

あなたにはきっと、見えるはずですよ！！

歯科界の明るい未来が!!!……光り輝やく、デンタルビルディングが!!

絵と文：岩淵 通（東京都・7回生）

デンタルハーブ・エチケットブランド

BOTANICALS

息さわやかリフレッシュ

— 全5種類 医院価格 ¥750 (35g 人) —
(患者価格 ¥950)



ホワイトキス ……

スカイモーニング ……

スモーキング・グリーン ……

エンジェルキス ……

フレッシュブルー ……

〒100-8585 東京都千代田区千代田1-3-5 TEL: 03-3234-0664 FAX: 03-3234-0664
 〒100-8585 東京都千代田区千代田1-3-5 TEL: 03-3234-0665 FAX: 03-3234-0664